

登録コード	E2170900	開講年度	2026				
授業科目	社会学基礎				担当教員	阿久津 昌三	
英文授業名	Introduction to Sociology				副担当	藤崎 聖也	
単位数	2	講義期間		曜日・時限	火曜・5時限	対象学生	2～4年生
講義室	教育N101講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー 非該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				社会学を学ぶことで人類の知とは何かを理解し, 世界の諸民族と文化について説明できるようになる。		
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				・社会学の基礎を学ぶことで, 社会学の基礎概念について説明できるようになる。 ・社会学の基礎概念を学ぶことで, 社会諸科学の古典を読みたくなる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	地域運営、芸術文化、環境共生、多文化協働、健康長寿、防災減災、キャリア						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	社会科学のなかで社会学はもっとも基礎的な学問である。現代社会にはどのような問題群があるのか。これらの問題群にはどのようなものがあるかを探究するとともに, これらの問題群を解読することにより, 世界の諸民族と文化, 社会学の基礎概念を学ぶ。毎授業において, 社会学に関するトピックをとりあげて講義する。なお, 本授業は男女共同参画に関する内容を含んでいる。						
(5)授業計画	第1回: 社会学とは何か 第2回: 社会学の研究对象 第3回: 社会学の研究諸部門 第4回: 理論社会学(1) ミクロ社会学 第5回: 理論社会学(2) マクロ社会学(1) 社会システム構造論 第6回: 理論社会学(3) マクロ社会学(2) 社会システム変動論 第7回: 領域社会学(1) 理論社会学と領域社会学 第8回: 領域社会学(2) 家族社会学 第9回: 領域社会学(3) 農村社会学 第10回: 領域社会学(4) 都市社会学 第11回: 領域社会学(5) 産業社会学と経済社会学 第12回: 経験社会学(1) 社会調査 第13回: 経験社会学(2) 計量調査 第14回: 社会学の学説史 定期試験および授業アンケートの実施 注) 【遠隔等】は遠隔授業を指します。						
(6)成績評価の方法	・毎授業のミニ試験で理解度を確認する。口頭発表形式のレポートで社会学的想像力のための認識度を確認する。最終試験で社会学の基礎の理解度を確認する。 ・毎授業のミニ試験(30%), 口頭発表形式のレポート(30%), 最終試験(40%)						
(7)成績評価の基準	問題の設定が適切である, 問題の背景が説明できる, 問題の課題を発見できる, 問題の解決を探究できる, 問題の解決につながる。 の項目まで達すれば「水準」, の項目を満たせば「かなり上」, の項目を提示できれば「卓越している」。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。						
(8)事前事後学習の内容	毎回リーディング課題を課す。授業開始後にその理解を問う小テストを行うので, それに備えて課題をしっかりと読み込んでから授業に臨むこと。この授業は 90時間の学修を必要とする内容です。従って, 60時間以上の時間外学習が必要となります。						
(9)履修上の注意	基本的には講義形式であるが, 授業のなかに口頭発表の場を設ける。主体的に参加すること。						
(10)質問, 相談への対応及び連絡先	学習を進めるための質問や相談を歓迎する。 e-mail: sakutsu@shinshu-u.ac.jp						
【教科書】	富永健一『社会学講義』中央公論社, 1995年						
【参考文献】	毎授業において, 社会学に関するトピック資料を配布する。						